

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-	
		コンビニ（経営者）	・観光名所では観光客が増加しているとのことであり、当店の近くにはホテルがあることから、多少の好転が期待される。	
		家電量販店（副店長）	・2月、3月と売上高は前年を下回っていたが、5月以降は季節商品の動きが活発となり、少なくとも現在よりは良くなる。	
			その他専門店〔楽器〕（経営者）	・不景気感などは依然としてあり、これまでに下落した売上は、良かったころの売上にはほど遠いことから、今後も厳しい状況が続くと予測されるが、イラク戦争が終結となったことで、県内への観光客数に少しずつ回復の兆しがみられる。
	変わらない		一般小売店〔菓子〕（企画担当）	・ゴールデンウィークをひかえ、レジャー関連業界は好転するのだろうが、例年ギフト菓子関連は、閑散期となるため、売上の増減は変わらない。
			スーパー（経営者）	・来客数、客単価ともにほぼ前月並みで推移しているが、客単価が相変わらず低水準であることや競合店の出店状況等から、2、3か月後も現状同様、厳しい状況が続く。
			スーパー（企画担当）	・年内に競合各社の新規オープン予定の店舗が数件あるなど、今後も当社と競合する店舗の増加がみられる。
			コンビニ（エリア担当）	・イラク戦争終結により観光客の動きは戻りつつあるが、デフレの傾向、単価下落の状況は続いており、景気の現状は変わらない。
			衣料品専門店（経営者）	・ここ数か月間、目立った変化は感じられず、今後についても、変化の様子は感じられない。
			その他専門店〔書籍〕（店長）	・最近は商売の受け方や客をどのようにつかむか等の内容の本が売れており、個々人の考え方が若干変わりつつある動きがみられる。厳しい世界的情勢の現状において、景気が上向くことは厳しいだろうが、現状は維持する。
		高級レストラン（副支配人）	・現状と変わらず、良い材料は見当たらず、イベントを行っても客が確実に入るといった材料があまりないことから、今後も現状と変わらない状況が続く。	
	観光型ホテル（副支配人）	・SARSの影響で、海外からの振替旅行者などが一時的に沖縄に来ている。ただし、この問題の長期化は、旅行観光業界には大きなダメージとなりうる。 ・北朝鮮問題が悪化すれば、風評被害も予想される。		
	ゴルフ場（経営者）	・現状のまま推移する。ただし、先行きは不透明である。		
やや悪くなる		住宅販売会社（従業員）	・住宅展示場の来客数が増加傾向にあるものの、6月ごろがピークと予想され、今後2か月が繁忙期となることが予想されることから、2、3か月後の景気は現状と変わらない。 ・株価の下落による低金利の状況が、購買マインドの低下につながるのではないかと危惧される。	
		百貨店（担当者）	・特に新しい商品はないため、来客数は減少する。	
		コンビニ（エリア担当）	・取引先との商談において、これまではあった、良い取引条件が最近はない。	
		乗用車販売店（総務担当）	・特に新しい商品はないため、来客数は減少する。	
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・飲食業は酒税の改正により価格の見直しをしないとイケないが、現状としては、販売価格に値上げ分を上乗せすることは難しい。この厳しい時期の発泡酒の税金引上げによる影響は、消費者、店舗ともに大きい。	
		都市型ホテル（マーケティング担当）	・宿泊客については、6～7月中旬にかけて例年落ち込む傾向にあることに加え、宴会部門で株主総会等の受注はあるものの、婚礼の受注が少なくなっている。	
		旅行代理店（経営者）	・SARSの影響により、しばらくはこの業界の好転は見込めない。	
		住宅販売会社（経営者）	・新規マンションの販売予定もなく、来訪物件についても、来客があっても成約までには至らない等の現状があることから、今後も厳しい状況が続く。	

	悪くなる	商店街（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> ・大型郊外店の増加により、中心商店街は危機的状況に陥っている。 ・大型店が各種対策を行っても厳しい状況であり、大型店は辛うじて対応できても、小売店は個々の力に限度があるため対応は難しく、売上は日々下落するなど厳しい状況になっていることから、今後、小売店は淘汰されるのではないかとという危機感を感じる。
		百貨店（総務担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数か月、来客数が前年に比べて大幅に減少しており、この状況が当分続く。
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の引き合い状況からすれば、2か月ほどは順調に推移する。
		通信業（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュフローの心配がともなうが、この半年間程度の状況をクリアすることで大きな成長が期待できる。
	変わらない	通信業（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客の伸び率と既存ユーザーの減少とが拮抗する。
	やや悪くなる	輸送業（総務担当） 不動産業（支店長）	<ul style="list-style-type: none"> ・イラク戦争等の影響により物量が減少する。 ・景気が良くなる材料が見当たらない。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> ・新規求職者の離職理由状況を見ると、対前年同月比で自己都合離職者が22.4%増となっている。 ・月間有効求職者数は15,974人で、対前年同月比1.1%と増加しているが、新規求職者の4.1倍と高くなっている。特に雇用保険受給者や求職者の滞留が続いており、長期化傾向にある。 ・中高年についても有効求職者数は新規求職者数の5.3倍となっていることから、離職による再就職が厳しい状況となっている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、県による派遣入札があったが、従来では考えられない程の低い単価で入札が決定している。売上の伸び悩みには単価の下落が大きく影響している。 ・また、派遣依頼があってもいずれ正社員にするという予定派遣が非常に増加しており、そのため今後、派遣依頼の状況は厳しくなる。
		人材派遣会社（営業担当） 求人情報政策会社（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数の動向に好転の兆しがみられない。個別の求人内容も条件がより厳しくなっているように見受けられ、企業の採用に対する慎重な姿勢がうかがえる。 ・企業からは正社員の募集がなく、傾向として、契約、アルバイト、パートなどの低賃金による雇用を図ろうとする企業が多いことから、企業側と求職者側で雇用条件のズレが生じている。 ・入社してすぐ退職するという若者の真意としては、将来、継続していく職に対する不安感があり、自分に合う職場探しをしているとみられることから、この状況はしばらく続く。
	悪くなる	-	-
		学校〔専門学校〕（就職担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・来月からの発泡酒、タバコ税の増税による消費の低迷や、ゴールデンウィーク目前でのSARS騒動による入域観光客への影響などの懸念材料から、雇用関連への影響が危惧される。